

ふるさと奥尻通信

平成27年8月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

かつて「非戦災者特別税」なるものがあった。戦災で家屋を失った者と、保持している者との間の不公平をなくすための一度きりの税制。家があるだけで税金をとられたのだった。

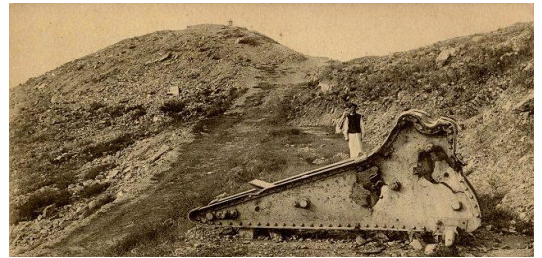
特集 奥尻島と戦争

戦後70年を迎え、奥尻島と近代戦争の関係を振り返りながら、今一度戦争の放棄と平和の希求を新たにしたいと思います。

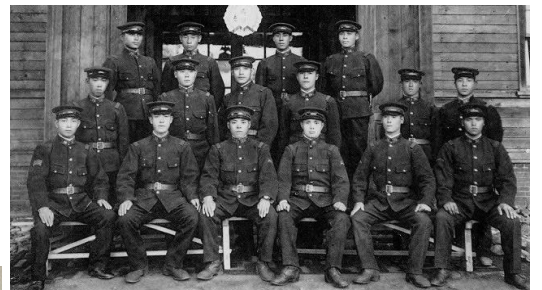
明治以降人口の増加をみた奥尻島ですが、帝国の政治基盤と軍事体制が整うにつれ、島民も自然とその一員として組み込まれていきました。

明治10年代までのことは不明ですが、明治27年(1894)に始まった日清戦争には、島で禁酒を説いていた沢口富士吉が軍夫として従軍し、亡くなったといいます。同23年に禁酒政策が取りやめとなり、失意の末に職を求めた結果なのかもしれません。

その後、明治37年(1904)からの日露戦争では、島出身者も出征部隊(陸軍第七師団:旭川)の一員として海を渡り、かの有名な「二〇三高地」で1名(三原新蔵:稲穂)が戦死しています。この頃、奥尻では、海軍の臨時の見張り所が稲穂岬に造られて奥尻地区まで電話を架設したり、宮津地区からは戦費のための募金が行われるなどして、協力体制がとられていました。また、近海ではロシア艦による雷撃により、帆船が撃沈される事件も起きました。



二〇三高地の激戦場 明治期絵葉書



歩兵第二十六連隊 大正4年除隊兵 奥尻出身者含む



奥尻出身者が入営した歩26(旭川) 出征者に贈られた寄書き 平木平吉宛

参考になる文献に、在郷軍人会が中心となって出征将兵に送った郷土の便りである、『銃後のたより』があります。詳細な記述が残る日中戦争期を抜き書きしてみます。

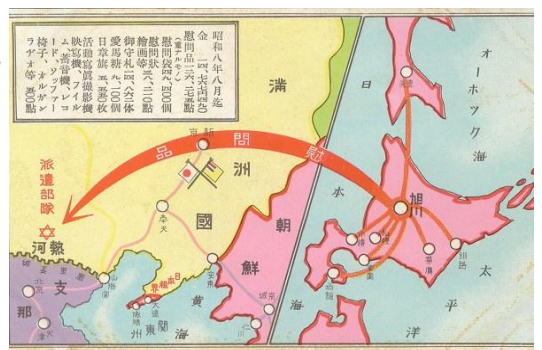
- ・昭和12年11月13、14日:奥尻全島防空演習で飛行機飛来。
- ・昭和12年12月15日:南京陥落祝賀で旗行列、祝賀会開催。
- ・昭和13年7月15日号:大須田長太郎(薬師)徐州会戦で戦死。
- ・昭和13年5月8日:青苗村村葬 赤平富雄(青苗沢)上海戦線戦死(同12年9月20日)十五年戦争期で最初の戦死者か。
- ・昭和14年5月12日:村葬 磯島勝三郎曹長(赤石)濰県大崖頭付近で戦死(同14年3月29日)。萱島部隊。赤石に個人墓あり。以降、ノモンハン事変の死者を含め続々と無言の帰還をしています。同文献によれば、軍事関係の死者は136名。

日中戦争初期、道南出身者が多く所属した部隊の一つが堀越部隊です。第七師団後備歩兵第二大隊(大隊長堀越圭介少佐。編成地:旭川)昭和12年7月27日動員。北支那方面軍として日中戦争に投入されました。戦果を報じる新聞紙上にたびたび登場した名前です。北海道の第七師団は日露戦争以降、激戦地に派遣される事が多く、損害率が高いのです。旅順二〇三高地、ノモンハン、ガダルカナル、アッツ、ニューギニア、ビルマ、沖縄など。どれも遺骨すら帰らない悲惨な戦場であり、今も未帰還の遺骨が野ざらしになっている場合も。北海の孤島からいけば「公平」に徴集され、死んでいったのです。”最強師団”などと呼ばれましたが、それは戦死者の裏返しでしかありません。

空襲の被害こそなかった奥尻島ですが、銃後の島民は戦地へ慰問袋を贈ったり、寄付金を集めて戦闘機を納めたりして、様々な戦争協力を余儀なくされたのです。



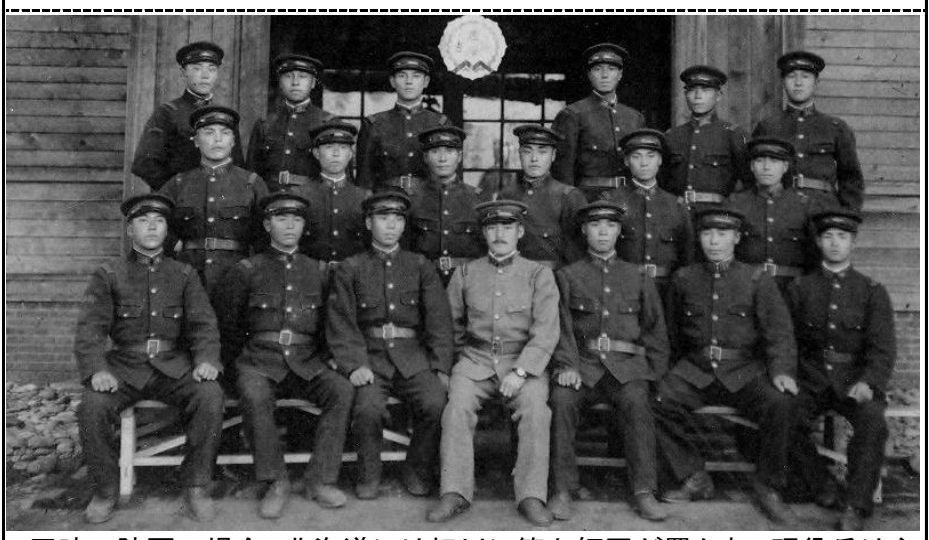
在郷軍人と忠魂碑の建立 大正8年



熱河事変時の部隊位置と慰問品の流れ 昭和8年



島民の寄付により献納した零式戦闘機 昭和19年



平時の陸軍の場合、北海道には旭川に第七師団が置かれ、現役兵は主に旭川市近郊の歩兵・騎兵・砲兵・工兵・輜重兵などに入隊していました。奥尻島は第七師団管下の函館連隊区に属し、歩兵の場合は歩兵第二十六連隊へ入隊しました。これは2年間の兵役を終えて帰郷する記念に撮ったもので、名簿には、坂本政吉(青苗村大字カヂカ)、野口己代治郎(薬師村52)、音村誠治(大字青苗村11)の名前が見えます。現在、人物の特定には至っていません。

学芸員の本棚 8冊目

続・百年の愚行
ONE HUNDRED YEARS OF LUNACY
> 911 > 311 >



戦争、差別、暴力、格差、核、環境破壊…
むしろ「狂気」と呼ぶべきかもしれない

学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

続・百年の愚行
小崎哲哉+Think the Earth

2002年の前書の刊行から12年、早くも続編が出てしまった。アメリカの9.11にはじまり日本の3.11まで。平和を願った21世紀は、虚しく宗教戦争で幕を開け、報復の連鎖を生みだし、それは最早行き着く先も見えないかのよう。キーワードは戦争、差別、暴力、格差、核、環境破壊…。はっきり言えることは、民族の悲劇果てしなく…。ということである。

月刊 奥尻のつり 8月号

夏の釣りと言えば？やはり船釣りでしょうか。真夏となると沖合の深場に魚が出て行ってしまいうものから、島の太公望も船に弱い人は指をくわえて見ているだけということも…。沖のブリ釣りでは2~5kg程度のものが多いようで、大物はまれの様です。深場ではタラも釣れているようです。さて、奥尻はアワビの名産地ですので、そこらじゅうにアワビの殻が落ちています。とは言え、これは島民が食い散らかしているのではなく、島のカモメやカラスが食べているのです。なんとぜいたくな！で、人間はというと、その殻を拾って細かく割り、表面を削って薄くして、ルアーや三角バケ(マスナタ)に貼り付けるのです。さてさて釣果のほどは？加工にかかる苦勞に見合うほどではないとの声もありますので、私はアワビシールでごまかそう…。

続・昭和奥尻生活詩 8回 (最終回)

昭和10年 奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「烏賊つけ」

すどれ	。言ね評	こ俺	一岸白	沖
(つば	：ぼ家	らえ	行今	さ
第た、	困し	の	げ日	行
2、俺	で	お	ねも	げ
回道	達天	だ父	とえ	ね
参下	は気	だ	れ	え
照君	死だ	ぬ。	つ	
の	ぬ。	詩	け	平
を	か	を	さ	木
思	り	思		平
ひ	だ	出		吉
出	つ			

てがあかる見にるた理開研
本、るく参をよ講。教催究北
質そ一フ加深り演大員さ会道
をのとい者め見や会二のれ海
知通述一はてて島で四、大高
るりベル、い回内は名道会等
の、てド一まるを、が内が学
で現いへ地しな地学来の奥校
す地ま現学たど学芸島高尻地
。をし地は。的見にまので教
知た一とと、見にまので教
つでにあ知地よし地初育



平成27年度 奥津神社神威山巡行

す心だ年で不幸た宝で山はた少
。配け々す足がの山も、。々今
祭りに縮がが重で、と御青寂の
り声、小、影なすが谷も奥苗し
もが関、地響つ。出地に、のい夏
奥間係減域したとな地出山言も
尻こ者少のてこもい区ず車代の神
のえな傾年のとにこの、(主と社
文てら向中こや氏と山澳恵神なり
化きずに行と、子と車津比社り
。まとあ事な人になへ神須でま
もるがの手不つ子社し

祭りの火が消える？

知なくれ一いがのいて生師
つる一、正、通る、方の学
たほ正統義中た信ん毎はコ校
年ど義く感一ま簿だ回子メの
頃、感二がのにと苦供ン通
重争強期一学みつ。し人欄簿
なり罪「欄とのすいも記人が
ま悪云も書欄とま小入りに担
すと々同かに面す中しつ、任
。じは白 高てい先教

すでや果が人一年一八はまソ
ね、紹でとは新にD%、しん先
。留介して一聞引M、一たの日
意はたも友「き」一友。アム
す。多人が続が新人大会ケ
べ大やか・多き一聞・会ケ
き変はつ知く参三が知をトラ
も重りた人、加%が人知トラ
の要、と一初しな二「つ結イ
なな口いのめたど五がた果ト
の事こう紹て人。%三経がマ
で項ミ紹介のは昨、緯出ラ

マラソンCD番外編

今月の奥尻のお宝



おくしりテレホンカード(50度) 1994年